

【概要】

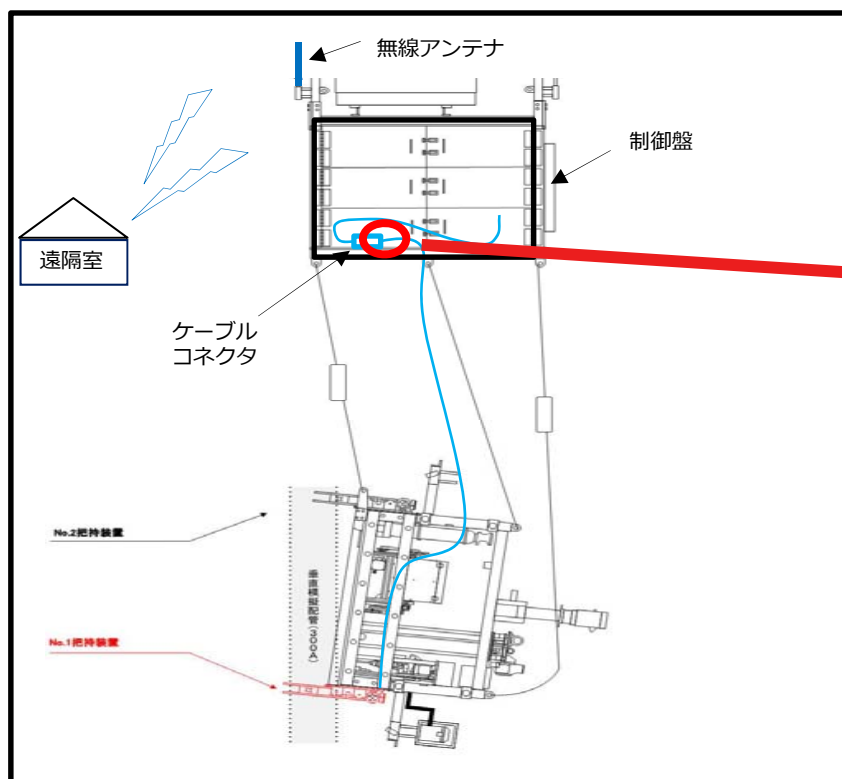
- 1・2号機非常用ガス処理系配管（以下、SGTS配管）の撤去作業の着手にあたっては、これまで構外施設において、モックアップ試験および作業訓練等の事前準備を実施しておりますが、8月28日に事前準備の一環として、現場のSGTS配管に配管把持装置※を設置し、動作確認を実施しました。
- 当該装置については、配管を2箇所では保持する構造としておりますが、本動作確認において、2箇所のうち1箇所が配管を保持したまま、外すことができない状態となりました。
- 事前に想定していた不具合時の対応に基づき、8月29日に作業員が装置へ直接アクセスし、当該装置を回転させることで、当該装置を配管から取り外しました。

<2021年8月30日お知らせ済>

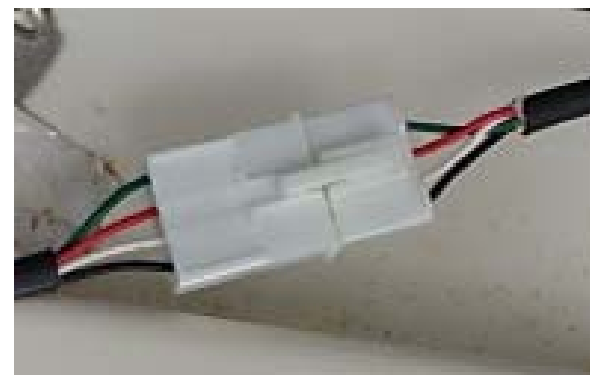
- その後、保持部分の1箇所が保持した状態のまま開放できなくなった原因調査を実施し、原因については、配管把持装置を吊り上げた際の揺れによる、制御盤内にある配管把持装置と電源ボックス間のケーブルコネクタ1箇所において接触不良が発生したものと推定しております。また、当該のコネクタは新品に交換し、正常に動作することを確認しております。

※SGTS配管を切断する際は、ダストが周囲に飛散するのを防ぐことを目的に、切断部分に事前に発泡剤を注入したうえで、配管の切断する工法を採用しており、配管内に発泡剤を注入するための装置。

- 再発防止対策として、制御盤内にある全てのケーブルコネクタの緩み確認を実施するとともに、ケーブルの整線を行い、制御盤内に新たにケーブル固定用のサポートを設置しました。また、遠隔操作室から把持を強制的に開放できるよう、プログラムを改修しました。
- 今年度中のSGTS配管の撤去に向けて、現在動作確認を実施しており、今後準備が整い次第、SGTS配管切断時のダスト飛散対策である、配管内部への発泡剤を注入する作業を開始いたします。引き続き、安全最優先に作業を進めてまいります。



【配管把持装置のイメージ図】



【通信不良が発生したコネクタ部】

導通確認の結果、コネクタ部（把持装置側配線：緑）に接触不良が確認された。